

# いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



10月号 発行 平成27年10月29日



## 新嘗祭献穀米の抜穂祭が 開催されました！

9月18日(金)、いわき市平下高久の献穀田において、11月に皇居で行われる宮中行事の新嘗祭に献上する米を収穫する神事「抜穂祭」が行われました。

献穀者は、いわき市農業委員会会長も務めている鈴木理(まこと)さんです。いわき市から献穀者が選ばれるのは平成18年以来9年ぶりとなります。

抜穂祭には、清水敏男いわき市長をはじめ、関係者50人が出席しました。鈴木さんのほか、妻の久子さんとJAいわき市の女性職員5人が刈女を務め、実った県オリジナル品種の「天のつぶ」を鎌で刈り取りました。

いわき市から米が献上されることは、関係者はもちろんのこと、農業者や地元の方々にとっても大きな励みとなりました。

収穫された献上米は、精米された後、10月23日(金)に皇居で行われた「献穀献納式」で献納されました。



(刈取前の献穀田)



(抜穂祭で稲を刈り取る鈴木さんご夫妻)  
(農業振興普及部)



## (株)JRとまとランドいわきファーム 「トマト栽培ハウス」建設工事 安全祈願祭が開催されました！

9月24日(木)、いわき市四倉町中島において、(株)JRとまとランドいわきファーム(以下「JRとまとランド」)のトマト栽培ハウス建設工事安全祈願祭が執り行われました。

祈願祭には、役員のほか、土地改良区、ほ場整備組合、JR東日本(株)、JAいわき市、建設事業者、金融機関、行政関係者等約40名が出席しました。

JRとまとランドは、「JR東日本(株)」と「(有)とまとランドいわき」及び「地元農家」が共同出資し、平成26年9月に設立された農業生産法人です。いわき地方の温暖な気候を生かしたトマトの大型養液栽培に取り組んでおり、いわき市産トマトのブランド化推進と連携施設を活用した6次産業化による付加価値の創造を目指しています。

今回建設されるトマト栽培施設は、県の強い農業づくり交付金事業の採択を受けて、面積1.78haを整備するものです。建設工事は平成28年2月に完成の予定であり、夏頃からトマトの収穫・出荷が見込まれます。

同施設の稼働により、新たな雇用が創出され、地域の活性化につながるものと期待されます。



(安全祈願祭の様子)



(鍬入れの儀)  
(農業振興普及部)

**農林水産業再生セミナー「会津地方先進事例視察会」を開催しました！**

9月9日（水）、市内の農林業者等を対象に農林水産業再生セミナー「会津地方先進事例視察会」を開催し、23名の参加がありました。

これは、ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動の一環で、「農林水産業の明日へのチャレンジ」を統一テーマとし、農林水産業の生産性の向上と農林漁業者の所得増加のため、県内外の先進的な取組に関するセミナーを開催するもので、各地方推進本部において行われています。

低カリウムレタスの生産をしている会津富士加工（株）、CLT（直交集成板）の普及促進に取り組む会津土建（株）、JAが運営する直売所では県内第2位の売上であるJAあいづ「ファーマーズマーケットまんま〜じゃ」を視察しました。

参加者は視察先の取組や技術等について担当者に積極的に質問しており、関心の高さがうかがえました。



（視察の様子）



（参加者の記念写真）

（企画部）



**「いわき市見せる課バスツアー～今日から、あなたも“いわき野菜アンバサダー”～」が開催されました！**

9月26日（土）、いわき市内において、いわき市 見せます！いわき情報局 見せる課主催による「見せる課バスツアー～今日から、あなたも“いわき野菜アンバサダー”～」が行われました。

今回のツアーは、主に首都圏在住の消費者19名を対象に、いわき産農作物の生産現場や放射性物質検査の様子を見学していただき、いわき野菜のおいしさなどの魅力を伝えていただく「いわき野菜アンバサダー」のセミナー“体験版”として実施しました。

まず、市とJAいわき市が連携して実施している「いわき産農作物安全確認モニタリング検査」を見学したほか、今が旬の「いちじく」をはじめ、「いわきエリンギ」、「サンシャイントマト」などの生産現場を巡りました。また、昼食には、今回のツアーで訪問した生産者の方々などが栽培した食材を使用した中華料理を味わってもらったところ、「いちじくのフルーティな甘さが引き立っておいしかった」、「生産者さんの愛情を感じた」などの感想が聞かれ、大好評でした。

参加された皆様には、ツアーを通じて、いわきの現状や生産者の取組み、いわき産農産物のおいしさなどの魅力を実感していただけたかと思しますので、いわきの“野菜大使”として、より多くの方々に、いわき野菜のおいしさを広めていただくことを期待しています。



（参加者の集合写真）



（サンシャイントマト生産施設の見学）  
（いわき市）

**「おいしい ふくしま いただきます！」  
キャンペーンが開催されました！**

10月18日（日）、いわき・ら・ら・ミュウにおいて、今年度3回目の「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました。

このキャンペーンは、県産農林水産物の安全・安心をPRするために開催しており、今回は300名の方に新米のいわき市産「天のつぶ（1kg）」を配布しました。

当日は、小さな子供連れの家族が多く、「福島県のCM見たよ」、「天のつぶ美味しかった」といった声が聞かれ、多くの方に喜んでいただくとともに、効果的に安全・安心のPRを行うことができました。



（県オリジナル品種「天のつぶ」を  
食べて応援しよう！）

（企画部）

**「とうほう・みんなの森づくり」  
植林活動が行われました！**

10月3日（土）、いわき市常磐湯本町にあるときわ台生活環境保全林において、（株）東邦銀行が植林活動を行いました。

今回の活動は、（株）東邦銀行、いわき市及び福島県の3者により締結した「企業の森林（もり）づくり協定」に基づいて実施したものです。

同行は、これまで須賀川市や喜多方市、北塩原村において、植林や下刈り等の森林整備活動を実施しており、浜通り地方での活動は今回が初めてとなりました。

秋晴れの中、各地から集まった行員とその家族ら約300名がクヌギやコナラ、ヤマザクラの苗木を植林しました。参加者は、慣れない作業に汗だくになりながらも真剣に取り組んでいました。

この森林整備活動は、来年度も実施される予定です。



（植樹の様子）

（森林林業部）

**JAいわき市いちじく部会  
出荷目揃会が開催されました！**

9月11日（金）、JAいわき市第一営農センター集荷場において、イチジクの出荷目揃会が開催され、四倉地区や大浦地区、夏井地区、小川地区の4地区から生産者17名が出席しました。

出荷目揃会では、JAいわき市の担当者から、着色基準に基づく適切な熟期の判断のポイントについての説明が行われ、いわき農林事務所からは、今後の収穫期の着色管理や施肥、病害虫防除の注意点等を指導しました。今年は、収穫間際の長雨などの影響により、全国的に出荷量が少なく、高単価な傾向となっています。

いわき市内のイチジクは「榊井（ますい）ドーフィン」という生食用の品種で、4.8ha栽培されています。県内では、甘露煮や干しイチジクとして食べられることが一般的ですが、イチジクを生で消費する食文化は、いわき地方特有のものであります。

イチジクの収穫期は、9月中旬から11月初旬までの長期間にわたります。イチジクには、「一日にして熟す」という語源があるように、今年も秋の味覚として毎日収穫されています。



（市内各地からの収穫果実）



（果実の着色を揃えましょう！）

（農業振興普及部）

**JAいわき市ねぎ部会総会が  
開催されました！**

9月8日（火）、スパリゾートハワイアンズにおいて、JAいわき市ねぎ部会の総会が開催されました。

総会では、生育概況や販売状況、平成26年度事業報告等がありました。平成26年産秋冬ねぎは、大雨による生育の遅延と

夏～秋にかけての病害発生により、欠株が多く生じたため、L級が減少して2Lが増加するなどの影響が見られました。

販売実績としては、高価格だった平成25年度と比較して、販売数量86%、販売金額74%という結果となりました。

総会后、シンジェンタジャパン株式会社の甘利芳樹氏により、「ねぎ栽培における病害対策」と題した記念講演が行われ、基本的な病害について説明するとともに、新農薬の作用等についても紹介されました。



(収穫間際のいわきねぎ)  
(農業振興普及部)

**地産地消推進キャンペーン「召しませ！いわき 至福の一皿」開催中！**

9月から翌年1月まで、いわき市では、地産地消推進キャンペーン「召しませ！いわき 至福の一皿」を開催しています。

このキャンペーンは、旬を迎えるいわきの主要な農作物5品目について、各月に1品目ずつテーマに据え、市内料理店等にて、その農作物を使ったオリジナルメニューを提供し、召し上がっていただくものです。

テーマ食材は、好評だった9月の「サンシャインいわき梨」、10月の「米(Iwaki Laiki)」に続いて、今後、11月の「トマト」、12月の「ねぎ」、最後が1月の「いちご」としています。

対象店舗については、市内の料理店や直売所等、各月20店舗以上で、テーマ食材を使ったメニューや食材そのものを提供、販売していただくこととしています。

具体的な店舗名及びメニューについては、キャンペーン特設サイトから、ご確認ください。

(<http://www.fukulabo.net/is.shtml/meshimase-iwaki/>)

また、期間中、対象店舗において、対象メニューを含むお買い上げ金額が500円以上の場合、店舗に設置する特製パンフレット掲載の応募ハガキに、店舗からご利用の証明を受けたうえで、キャンペーン事務局へ応募すると、各月、抽選で、いわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki」や、いわき

野菜の詰合せセットなどがあたるプレゼントキャンペーンも、併せて実施しています。



(キャンペーンのロゴマーク及びポスター)  
(いわき市)

**いわきへのサンマ初水揚げ！**

10月7日(水)、小名浜魚市場において、今年始めてサンマが水揚げされました。

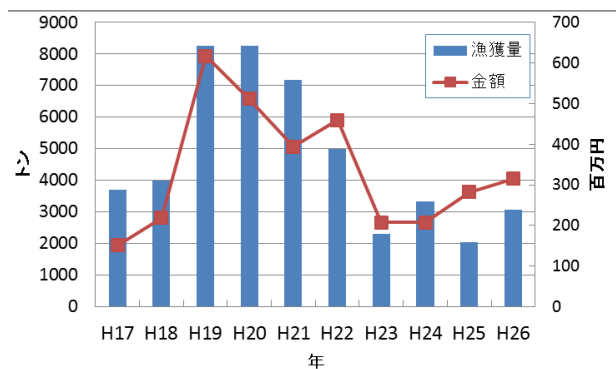
昨年より15日遅い水揚げです。今年はサンマが不漁であることや漁場の南下が遅れていることが要因と考えられます。

今回水揚げしたのは、本県所属のサンマ漁船で、105トンの水揚げし、単価は昨年の2倍近い259~350円/kgでした。今年のサンマは、例年よりも小ぶりですが、漁獲量が少ないために高値が続いています。

サンマ漁業は、本県水産業において、重要な漁業の一つで震災後も通常操業を継続していますが、震災後は本県への水揚げが減少し、震災直前の半分程度の水揚げで推移しています。



(小名浜港での水揚げ風景)



(サンマの福島県への水揚げ)  
(水産事務所)



## いわき地方の農林水産物 モニタリング検査結果

### 農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の9月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果（表1）をお知らせします。

（表1）農林畜産物の検査結果（9月末現在）

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
11品目	2品目（※1）			13品目
	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	
23検体	11検体	7検体	0検体	41検体

※1: クリ、小豆

検査した13品目41検体のうち、11品目23検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表2）のとおりです。

（表2）1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

ブドウ 1、イチジク 2、カキ 5、ニンジン 1、サトイモ 1、菌床しいたけ（施設）3、菌床なめこ（施設）1、原木ヒラタケ（露地）1、原木しいたけ（施設）2、牛肉 2、原乳 4
--

なお、クリ、小豆については、それぞれ6検体、1検体に100Bq/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は（表3）のとおりです。

（表3）基準値内で検出された品目と検体数

品名	検体数	内訳	
		100Bq以下	検出限界値以下
クリ	16	6（最大値46Bq/kg）	10
小豆	2	1（3.8Bq/kg）	1

9月30日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、（表4）のとおりです。

（表4）出荷制限及び出荷自粛品目（9月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限（7品目）	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらのめ（野生のものに限る）
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
畜産物	—	
出荷自粛（1品目）	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

（企画部）

### 海産魚介類の検査結果

福島県沖で採取された海産魚介類への放射能の影響は、時間の経過とともに着実に低下しています。

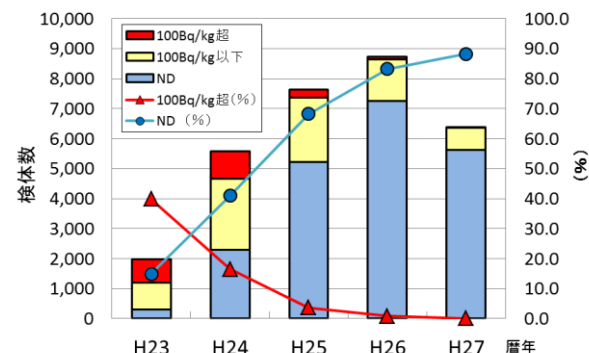
平成27年1～9月までにセシウムの食品衛生法における一般食品の基準値の100Bq/kgを超えたものは4検体で、全体の0.1%でした。

なお、3月7日以降に採取された海産魚介類で基準値の100Bq/kgを超えたものはありませんでした。

モニタリング検査結果により安全が確認された魚介類を対象に試験操業が行われています。平成27年10月現在64種類の海産魚介類が試験操業の対象となっています。

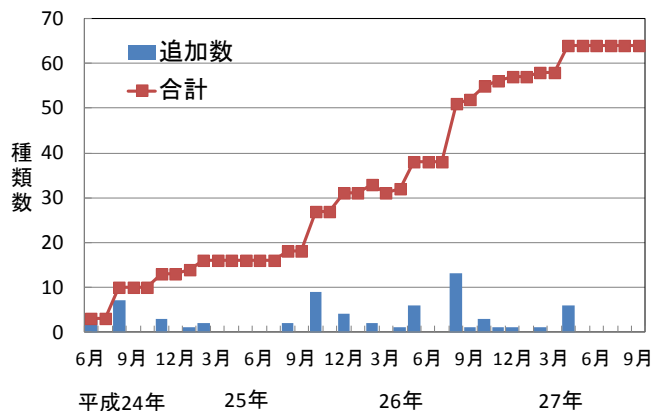
（平成23年以降のモニタリング検体数と割合）

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合（%）	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合（%）	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合（%）	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合（%）	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	744	5,624	6,372
	割合（%）	0.1	11.7	88.3	100.0
計	検体数	2,065	7,543	20,679	30,287
	割合（%）	6.8	24.9	68.3	100.0



（※採取年月日で集計）

（試験操業対象種数）



（水産事務所）

## いわきの情報をお知らせします！

### 福島県いわき農林事務所

いわき市平字梅本15番地(福島県いわき合同庁舎3F)  
TEL.0246-24-6197 FAX.0246-24-6196

mail kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp  
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/

Q いわき農林事務所

検索



#### いわき市内の米栽培

収穫の秋を迎え、稲刈りもいよいよ本格的になり、待ちに待った美味しい新米が徐々に店頭などに並び始めています。

いわき市における昨年度の収穫量は21,900tで、主な品種は、市内全域で作付されている「コシヒカリ」や「天のつぶ」、中山間地域を中心に作付されている「ひとめぼれ」です。

#### 福島県オリジナル品種「天のつぶ」

「天のつぶ」は、福島県が15年の歳月をかけて開発したオリジナル品種です。穂が出るときに天に向かってまっすぐ伸びる稲の力強さと、天の恵みを受けて豊かに実る一粒一粒のお米をイメージして命名されました。

市内における「天のつぶ」の生産量は年々増加しており、その特性は、粒が大きく、冷めても美味しいため、すし飯やお弁当などに向いています。

「天のつぶ」は、スーパーや道の駅等で購入できますので、ぜひ新米を味わってみてはいかがでしょうか。

なお、福島県では、今年もすべての県内産米の「全量全袋検査」に取り組んでいます。



## 食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日(11月は8日(日)、18日(水)、28日(土))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介いたしますので、ぜひご賞味ください。

なお、店舗の都合により内容は変更される場合がありますのでご了承ください。また、営業日(メニューの実施日)については、事前にご確認ください。

### ○ 北の屋そばや(植田町本町1-10-1)

- ・地産地消メニュー: 天ぷらそば・うどん、なべやきうどん、カレーうどん
- ・説明: 県内、市内の食材をできるだけ多く使用しています。
- ・店舗からの情報: 平日は、得々献立(ランチ)を実施しています。  
※ 11月18日(水)は、定休日です。
- ・店舗の電話番号: 0246-62-4752



### ○ 惣菜&レストラン吉福(平字東町5-1)

- ・地産地消メニュー: 惣菜
- ・説明: マコモダケの肉味噌炒めをはじめ、約40種類の惣菜にいわき産野菜をできるだけ多く使用しています。
- ・店舗からの情報: 毎月第一・第三土曜日に吉福駐車場で朝市・フリーマーケットを行っています。  
また、毎月第一土曜日には認知症についての話し合いも開催しています。  
ご興味がある方や参加されたい方は、吉福までご連絡ください。
- ・店舗の電話番号: 0246-22-0886



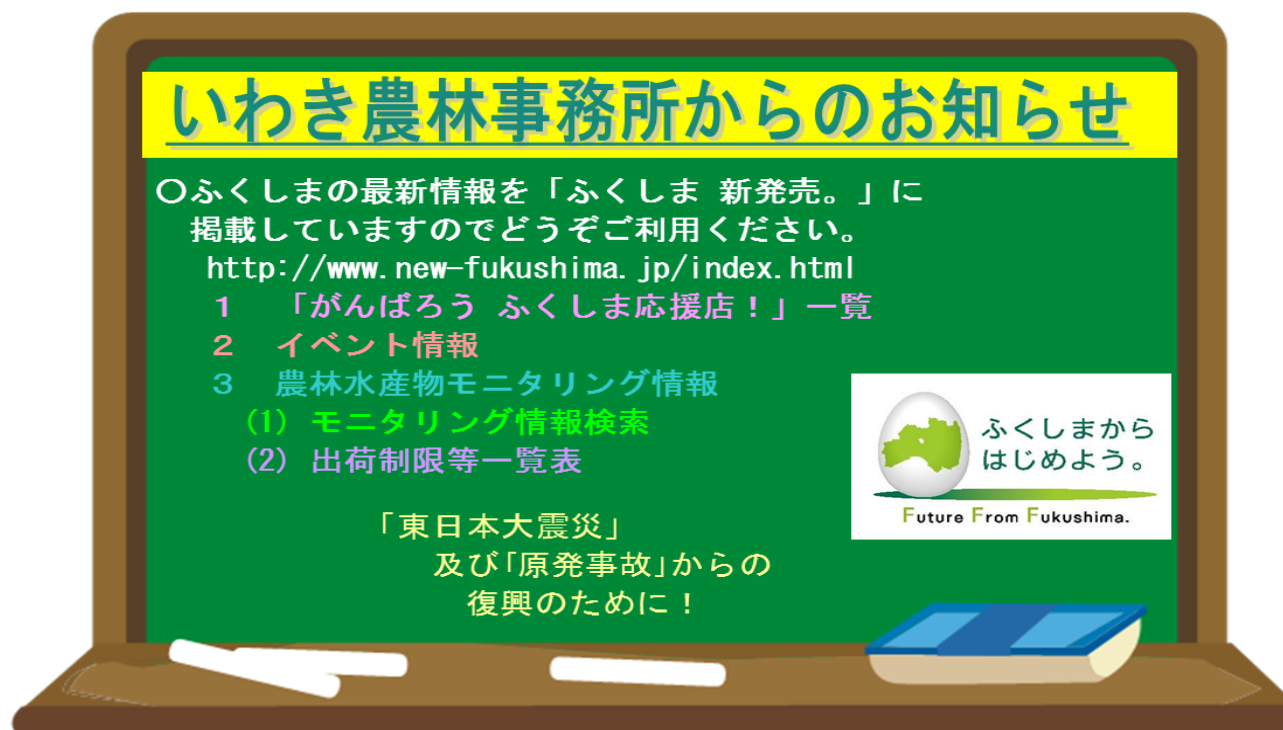
## いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
  - (1) モニタリング情報検索
  - (2) 出荷制限等一覧表

「東日本大震災」  
及び「原発事故」からの  
復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース